

科目名	国際法特講	担当者	アンドウ 安藤 タカヨ 貴世	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際法は国家間関係を規律する法であるが、今日、その規律対象は国家に留まらず、国際機関、個人などにも及ぶ。こうした点を念頭に、本科目は、国際法の形成と発展、国際法の主体、武力行使禁止原則など、国際法の基本構造を理解したうえで、現代の国際社会が直面している個別具体的な論点や課題について国際法の観点から検討し、理解する力を身につけることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の現状を理解し、自らの言葉で説明する力を身に付けることができる。 現代の国際社会が直面する諸問題を発見し、国際法を手掛かりに論理的かつ批判的に思考することができる。さらにそれら諸問題の解決策について提案することができる。 <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際法の形成と発展について、国際法の主体 (国家、国際組織、個人など) について留意しつつ、理解する。 2) 今日の世界情勢を念頭に置きつつ、国際法の基本原則たる武力行使禁止原則について、その例外とともに理解する。 3) 現代の国際社会における諸問題 (難民、個人の国際犯罪、人権の国際的保障、領土・海洋、国際環境保護など) について、自らの関心に沿ってテーマを設定し、国際法の観点から理解する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>準備学修項目：レポート課題において指示された教材を熟読すること。また、指示された参考書を適宜参照すること。</p> <p>準備学修期間：1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、manaba folio への提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio を使用し、教員と院生との間での双方向性を重視した添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>基本教材、参考図書のほかに、必要に応じて関連図書・文献などを参照しつつ、レポート課題に沿って各レポートを作成する。レポート作成に際しては、オンラインを通じた教員からの指導、コメントや双方向的な質疑応答に基づいて修正を重ね、最終的なレポートを完成させる。また必要に応じて対面指導も取り入れ、レポートの作成、履修生の学修を補完する。</p>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1については草稿を7月末、レポート課題2については草稿を8月末を目安に提出すること。 その間、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ対応する。 最終稿の提出は、レポート課題1、2ともに9月下旬とする。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1については草稿を11月中旬、レポート課題2については草稿を12月中旬を目安に提出すること。 その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ指導、対応する。 最終稿の提出は、レポート課題1、2ともに1月中旬 (課題提出締切日) とする。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	<ul style="list-style-type: none"> 基本教材、参考図書、その他の文献を用い、課題に沿った十分な検討がなされているか。 レポートの構成、論理展開が明確か。 脚注、参考文献リスト等レポートの体裁が整っているか。
	平常評価	20 %	教員からのコメントに対する対応、質疑応答など、レポートの最終稿提出までの取り組みを評価する。
履修者への要望	<p>基本教材の理解を前提としつつ、参考図書やそれ以外の関連文献をリサーチしたうえで、テーマ設定、レポート作成を行うことが求められる。</p> <p>レポート作成にあたっては、単に基本教材等をまとめるだけではなく、国際社会における現代的な問題に関心を寄せ、それらの問題について、国際法をとおり論理的に議論を展開することを心掛けてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 横田洋三編 教材名： 『国際社会と法』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4641046528 2,800円＋税 国際法の基本的構造について，特に市民生活と国際法とのかかわり（国際人権分野，国際経済分野等）について取り上げ概説する入門書である。
参考図書	小寺彰ほか『講義国際法（第2版）』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4641046535 4,300円＋税 柳原正治ほか『プラクティス国際法講義（第3版）』（信山社，2013年）ISBN:978-4797224085 3,800円＋税 岩沢雄司『国際条約集』（有斐閣，2017年）ISBN:978-4641001497 2,800円＋税 （なお，『国際条約集』は最新版のものでなくとも構わない。） 小寺彰ほか『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣，2011年）ISBN:978-4641115040 2,476円＋税
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って，基本教材のほかにも，参考図書や，必要に応じて関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特に，国際法の形成と発展の過程，国際法の基本原則たる武力行使禁止原則について十分に理解し考えることは，今後の学修における基盤となる。
レポート課題 1	国際法の形成と発展について，国際法の主体にも留意しつつ論じなさい（4,000字程度）。 留意点: 基本教材第1章などを参照しつつ，国際法の形成および発展の歴史について，伝統的主体である国家のみならず，国際機構，個人なども国際法の主体と認められるようになった過程にも留意したうえで論ずること。
レポート課題 2	戦争違法化，武力行使規制の歴史について整理したうえで，武力行使禁止原則の例外について国連憲章の規定を挙げつつ論じなさい（4,000字程度）。 留意点: 基本教材第7章などを参照しつつ，戦争違法化の系譜と国連憲章の規定について留意し論ずること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 横田洋三編 教材名： 『国際社会と法』（有斐閣，2010年）ISBN 978-4641046528 2,800円＋税 国際法の基本的構造について，特に市民生活と国際法とのかかわり（国際人権分野，国際経済分野）について取り上げ概説する入門書である。
参考図書	小寺彰ほか『講義国際法（第2版）』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4641046535 4,300円＋税 柳原正治ほか『プラクティス国際法講義（第3版）』（信山社，2017年）ISBN:978-4797224085 3,800円＋税 岩沢雄司『国際条約集』（有斐閣，2016年）ISBN:978-4641001497 2,800円＋税 （なお，『国際条約集』は最新版のものでなくとも構わない。） 小寺彰ほか『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣，2011年）ISBN:978-4641115040 2,476円＋税
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って，基本教材のほかにも，参考図書や，必要に応じて関連の論文なども参照しつつレポートをまとめること。特にレポート1，2ともに，取り上げるテーマについては，現代的な問題・課題を念頭に置きつつ，担当教員と十分に相談したうえで決定すること。
レポート課題 1	「難民の庇護」，「国際犯罪と個人」，「人権の国際的保障」からテーマを1つ設定し，現代的な問題に触れつつ論じなさい（4,000字程度）。 留意点: 基本教材第10章，第11章などを参照しつつ，担当教員と相談のうえテーマを設定し，レポート課題に取り組むこと。
レポート課題 2	「領土」，「海洋」，「国際環境保護」をめぐる現代的な問題からテーマを1つ設定し，国際法の観点から論じなさい（4,000字程度）。 留意点: 基本教材第3章のI，第6章，第13章などを参照しつつ，担当教員と相談のうえテーマを設定し，レポート課題に取り組むこと。